

文教常任委員会

健康福祉常任委員会

産業建設常任委員会

総務常任委員会

平成24年度合志市一般会計補正予算について (学校教育課)
問 理科支援員配置事業について。
答 理科の指導実績を持つ退職教職員の人材を活用して、小学校5、6年生の理科教育の充実を図る。
問 子どもたちの自立支援事業について。
答 不登校などへの積極的な予防、解消を図るため、体験活動や訓練などを行う事業である。
(生涯学習課)
問 会場借上料の水中運動教室でユーパレス弁天のプールを使う目的について。

平成24年度合志市一般会計補正予算について (反対討論)
受講料を増額することに反対する理由として、今、集中改革プラン構造改革の中で、受益者負担を求めるところが多くなっているが、自治

平成24年度合志市水道事業会計補正予算について
問 建設改良費の補償費150万の内容は。
答 竹迫第一配水池改良のために、

平成24年度合志市一般会計補正予算について (福祉課)
問 「災害時要援護者避難支援計画策定事業」について、救済計画等、実効性を上げる計画は考えられているのか。
答 計画の中の個別計画、援助が必要の人がどういった状況にいて、それを助けていただけの方がいるなら誰か、総合的に登録して、台帳の更新を行っている。一番の問題は、孤立される可能性のある方を助ける支援者が存在するかどうかで、大震災が発生した時に実際にそこに行けるのかも問題であり、

平成24年度合志市水道事業会計補正予算について
問 建設改良費の補償費150万の内容は。
答 竹迫第一配水池改良のために、

平成24年度合志市下水道特別会計補正予算について
問 下水道事業費の事業計画変更認可申請書作成業務委託の内容は。
答 大雨時に、西合志庁舎方面から大池方面に流れる道路冠水対策として、側溝を大きくする計画では難しいので、調整池の設置を考えている。その申請書作成の委託である。

平成24年度合志市一般会計補正予算について (賛成討論)
生涯学習講座は、市民の方が自分で希望され、自主的に受講されている。今までは必要経費の2割が受講者の負担でしたが、8割は公費でまかなわれていた。
受講される方は、自分の学習意欲を高めるための経費として納得して受講されている。今回の受講料の見直しについてクレームはなく、楽しく受講されているとの説



男の料理講座

明もあり、適正な措置であり賛成である。



ささえ愛ネットワーク・徘徊模擬訓練

平成24年度合志市一般会計補正予算について (農政課)
問 人・農地プラン作成検討会委員の予定者は、どういう人が選ばれるのか。
答 予定として女性アドバイザー、農業委員、認定農家の方、農業法人等となっている。国より3割以上は女性の委員を、という指導が来ており、それを守っていった。
(都市計画課)
問 都市計画基礎調査はどのエリアを行うのか。
答 基礎調査は、おおむね5年を目途に行い、市内全域を対象にす

平成24年度合志市一般会計補正予算について
問 この調査結果により規制緩和につなげることができるか。
答 この調査が、直接規制緩和につなげるものではなく、都市計画やマスタープランを見直す際の資料として現状把握するものである。

平成24年度合志市下水道事業会計補正予算について
問 建設改良費の補償費150万の内容は。
答 竹迫第一配水池改良のために、



竹迫第1配水池改良工事現場

既存電柱の移動が発生し、その電柱移転のための補償費である。

住民基本台帳法の一部改正に伴う関係条例の整理に関する条例について (総務課)
問 外国籍を持っている合志市民の具体的変化は。
答 日本人と同様の住民票が作成され、利便性が向上する。
平成24年度合志市一般会計補正予算について (財政課)
問 財政調整基金の繰り入れ後の残高は。
答 今回の補正後の残高は、22億4千227万3千円となる。

平成24年度合志市一般会計補正予算について (まちづくり戦略室)
問 響創塾運営委託について具体的に説明を。
答 事業の推進母体となる協議会が、NPO法人熊本マンガミュージアムプロジェクトとNPO法人グラウンド12、さらに、熊本をIT事業による地域貢献を行いたいと考えているコンテンツ企業などで組織されている。アニメ・マンガを生かした地域活性化事業は二つのイメージがあり、コンテンツ制作を目的としたクリエイター育成事業の響創塾運営とマンガ蔵書のデータベース整備。今回は熊本高等専門学校との全面協力のもと、同校

平成24年度合志市一般会計補正予算について (商工振興課)
問 蓬原第二工業団地の状況は。
答 今回の補正の承認を頂いたら、早急に入札を行い地区計画等もあ

平成24年度合志市一般会計補正予算について
問 響創塾運営委託について具体的に説明を。
答 事業の推進母体となる協議会が、NPO法人熊本マンガミュージアムプロジェクトとNPO法人グラウンド12、さらに、熊本をIT事業による地域貢献を行いたいと考えているコンテンツ企業などで組織されている。アニメ・マンガを生かした地域活性化事業は二つのイメージがあり、コンテンツ制作を目的としたクリエイター育成事業の響創塾運営とマンガ蔵書のデータベース整備。今回は熊本高等専門学校との全面協力のもと、同校



熊本高専校舎